

令和8年1月13日

創立記念日にあたって

県立多可高等学校
校長 木澤 直子

1月14日は、本校の創立記念日です。今年度は、創立50周年を迎え、昨年の12月13日に、「創立50周年記念式典」を挙行できたことは、まだ記憶に新しいところです。創立記念日を迎えるにあたり、改めて本校の歴史に思いを巡らせ、多可高校生として自覚をもって、これまで以上に多可高校で学ぶ喜びと誇りを感じながら充実した高校生活を送ってくれることを切に願っています。

1 学校の沿革

昭和49年4月	兵庫県立西脇北高等学校多可分校開校式・入学式挙行
昭和51年4月	兵庫県立多可高等学校として独立 兵庫県立多可高等学校開校式・転入式・入学式を中町中学校体育館で挙行
昭和54年11月	校舎竣工記念式典挙行
昭和61年4月	英語コース設置
平成元年11月	図書館・校門完成記念式典挙行
平成10年4月	新棟竣工記念式典挙行
平成13年4月	英語コース募集停止 総合類型、個性伸張類型設置
平成19年4月	福祉ボランティア類型、総合カルチャー類型、情報ビジネス類型設置
平成20年3月	複数志願選抜制度実施
平成27年4月	学区再編に伴い、第3学区（旧明石・加印・北播学区）となる
令和7年12月	創立50周年記念式典挙行

2 創立に込められた思い

本校は、「多可郡に県立高校を」という地域の方々の強い願いから、地元県議会議員や教育委員会をはじめとした関係各位の大きなご尽力を得て創立されました。創立当初より地元に根付いた高校として地域住民から大きな期待を受けて、昭和54年の校舎竣工式典以降も、グラウンドの拡張やテニスコート、図書館（現多目的ホール）、第3号館教室棟完成など、その充実ぶりには目を見張るものがありました。教育面においては、平成13年に英語コースに代わって総合類型、個性伸張類型が設置され、その後、平成19年に設置された福祉ボランティア類型、総合カルチャー類型、情報ビジネス類型の3つの類型からなる普通科高校として現在に至っています。

以来、校訓「日日新」を基軸にして、「福祉のこころ」を育み、自らを磨き、地域社会に貢献することをおして自己実現をはかる教育活動を積み重ねてきました。本校が大切にする「福祉のこころ」は、「思いやりのこころ」「自発のこころ」「共生のこころ」を総称したもので、新しい時代を切り拓くために必要な主体性、多様性の尊重、チームワーク、コミュニケーション能力、豊かな感受性、優しさ、思いやりなどの資質や能力を培い、自立して未来に挑戦する人材の育成を目指すものです。その精神はしっかりと受け継がれており、各方面でご活躍されるたくさんの人材を生み出し、令和7年3月現在、卒業生は7,407名を数えています。

今後も、生徒のみなさん一人ひとりが、先輩方に深く敬意を表しながら、地域に学び、地域に貢献し、地域を支える人材育成を目指す本校の学びをおして自己実現をはかるために、さらに活躍してくれることを祈ります。